



水戸ユネスコだより

2024年 (2024年3月15日 発行)

編集・発行：水戸ユネスコ協会 (Mito UNESCO Association)

事務局：〒310-0012 水戸市城東 4-5-4

ホームページ：<https://mtunesco.jp/> (右下にQRコードあり)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。



いまこそ 伝えたい UNESCO 憲章

水戸ユネスコ協会 会長 中庭 陽子

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻から2年が経ちました。この21世紀に、隣国へ戦車で攻め入り、ミサイルを撃ち込み、力で我が物にしようとする行為が行われるとは、私にとって想定外の衝撃でした。

1946年に、第二次世界大戦の惨禍を経験し「二度と戦争を繰り返さない」という決意に基づいてUNESCOが創設されました。民間ユネスコ団体もユネスコ精神に基づいて、平和で持続可能な社会づくりを目指して活動を続けてきました。

しかしながら、ウクライナ侵略が起こり、さらにイスラエルとハマスの間で戦闘が起こり、多くの市民や兵士が犠牲になっています。また、政変により、アフガニスタンやミャンマーなど、世界各地で平和が脅かされています。日本においても台湾有事の際の防衛準備が議論されるようになりました。

このような時代において、私たちは改めて、UNESCO 憲章を記した先人の意志を受け継ぎ、平和への市民の意識啓発、次代を担う子どもたちへの教育という原点に戻ることが必要に思います。

今年度は、会員の皆様のご尽力で、民間ユネスコ運動・環境学習会・わたしの町のたからもの絵画展・梅染めプロジェクト・国際交流・英語でクッキング・新年交流会が実施でき、通常の活動に戻れましたことをうれしく思っております。来年度は、これまで実施してきた活動をパッケージ化して「Mito UNESCO プラネタリー塾」を立ち上げ、市民の方に、また子どもたちに、UNESCO 憲章を伝えることを念頭にそれぞれの取組が展開できればと願っております。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と言える市民が増えたらどのような街になるのでしょうか。楽しみです！

引き続き、水戸ユネスコ協会に対しまして皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- (UNESCO 憲章前文より抜粋)



第24回水戸地区絵画展「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」

水戸市内の小・中学校のご協力により絵画展は12月19日(火)～27日(水)にかけて常陽銀行本店ロビーにおいて開催されました。偕楽園を中心とした市内の歴史ある文化財や通学している学校など身の回りの自然や風景を大切にしたいという思いが伝わる作品が多く寄せられました。自分たちが住む町への愛着と誇りが多くの作品から伝わってきました。身近な題材を中心に、現在から未来へと継続して町の環境を大切に、持続可能な社会をつくるというSDGsの趣旨に合った作品が多かったと思います。また、絵画展では、「作者からの一言」と「審査講評」を添えて、作品とともに展示させていただきました。

(高木 昌宏)



こみっとフェスティバル2024

2024年も「こみっとフェスティバル」に参加してきました。今年は「水戸の梅染め ～ひろがる輪～」というテーマのもと、水戸ユネスコ協会、智学館中等教育学校中学2・3年次、水戸工業高等学校図書委員会の梅染め活動を紹介しました。展示内容は、智学館中等教育学校では今年度の研究成果の発表と販売に向けて作成しているうちの展示、水戸工業高等学校では今年度の探究成果の発表と梅染めと組紐をかけ合わせた商品の販売を行いました。また、つまみ細工のワークショップと、イベントの景品として梅染めハンカチを用意しました。水戸工業高等学校の生徒も2名参加し、積極的に自分たちの活動の紹介やワークショップの指導をしてくれました。ワークショップでは写真のようにつまみ細工を作り、お年寄りから子供まで地域の方へ梅染めの魅力を伝えることができました。内原イオンでの開催ということで子供の参加者も多く、梅染めハンカチやつまみ細工を手にして笑顔になってもらえたことが印象的でした。今回のイベントには1600名の来客があり、水戸ユネスコ協会の活動を多くの方に知ってもらうよい機会とすることができました。今後もこのような活動を通して地域の方々へ水戸ユネスコ協会の活動を紹介し、活動を還元し、つながりを増やしていきたいと思えます。(五十嵐 蓮)



2023年度「民間ユネスコ運動の日 平和の鐘を鳴らそう」

2023年度「民間ユネスコ運動の日 平和の鐘を鳴らそう」の行事を、8月6日(日)AM10:00～12:00に、水戸市国際交流センターにおいて開催しました。本年度は、「国際交流で平和の心を広げよう」をテーマに、常磐大学留学生のソーニャさん(ウクライナ)、バンクさん(タイ)のお二人を迎えて、多文化交流を通して、平和を考える場となりました。まず、開催にあたり、参加者全員で「ユネスコ憲章前文」を斉読し、平和を祈ることから始まり、会員である富田典子理事による琴の演奏では、平和の音色が響きわたり、思いがひとつになりました。また、留学生の方々から「国のこと」、「伝えたいこと」、「大切にしていること」等について、ショートスピーチを行って頂き、互いの思いを語り合い、異文化交流を通して、平和を考える切っ掛けとなり、深い交流ができました。最後に、参加者16名全員にて「ユネスコの歌」、「イマジン」等を合唱し、心の中に平和のとりでを築き、広めることができました。

(櫻庭 紀久子)

「第79回日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田」に参加して

富士山が世界文化遺産に登録されて10年の節目の年に全国大会が富士吉田市で開催され、9月9日自然豊かな富士山麓にユネスキャン約400名が参集しました。

記念講演では米国ボストン美術館所蔵の浮世絵デジタル化プロジェクトの日本側責任者を務める牧野健太郎氏から「富士山と浮世絵」をテーマに、ヨーロッパで当時の画家の作風に影響を与えた「富士山」が芸術の源泉となったことが紹介されました。浮世絵の細部を拡大して一瞬のうちに江戸にタイムスリップしデジタル化が明かした江戸庶民の文化、遊びや洒落が読み解かれた瞬間でした。パネルディスカッションでは山梨県の高校生3名に加え愛媛県から1名がオンラインで「ユネスコの今と未来」について語られた中で、若い力を育むには学校と地域の民間ユ協との連携・情報共有が不可欠と感じた大会でした。(宇佐見 恵子)

「英語でクッキング」と新年交流会

「英語でクッキング」と新年交流会を、2024年1月28日(日)、水戸市国際交流センターにおいて参加者20名で実施しました。同センターの調理室で約2時間、ガーナ出身のパーコフィさんのカレーの調理実習を英会話で楽しみながら行いました。本年度の事業予定である英語で異文化体験として、急遽実施でしたが、パーコフィさんが快くお引き受け下さり、「英語でクッキング」を実施することができました。クッキング参加者は全部で10人、大学生1人と一般の方1人及びユネスコ会員8人でした。英語のレシピに基づき早速、英語での説明開始。英会話は聞くことができても英語での返答は難しいもので、イエスとオッケーが飛び交っています。調理室はにんにくとしょうがとカレールウの美味しい香りで充満し、わくわくでしたが、館内の他の方々にはちょっと迷惑でしたか……。

その後、場所を多目的ホールに移動し、会食及び新年交流会を行いました。刺激的でおいしく、そしてやみつきになるカレーを楽しみながら、初心者の方からの食リポや、ユネスコの活動に興味や理解を示すお話を聞くことができました。また、パーコフィさんから英語でカレーについて丁寧な説明を受け、先崎キヨ子さんから本日のカレーに合うチャイという紅茶のお話や紅茶文化のお話も伺うことができ、楽しいひと時を過ごしました。最後に優しい音色のヘルマンハーブの演奏と歌を埴恵美子さんが披露し、爽やかな歌声の矢代美智子さんの歌、そして皆でふるさとを歌い、短時間ではありましたが今年も新年交流会を楽しみました。(寺門 律子)

モリアルタロータリークラブと布絵

2003年、顔料の代わりに日本伝統古布を利用して描く「布絵」を読売新聞が海外に発信。オーストラリア在住の恵美子マイヤーさんの目に留まり「アデレードで展示開催を！」との熱いオファーがあり、9月に布絵チームと共に海を渡りました。恵美子さんの夫ピーターさんがロータリークラブ会員で、私が水戸ユ協会員だったことから交流が始まりました。繻子、紅絹、生成の胴裏などが「絶滅の布」になることを危惧して40年間活動してきました。布絵は「保護の芸術！」これが私のSDGsです。今年度はモリアルタから12名が10月18日に来水、水戸市国際交流センターで布絵の展示、呈茶、箏と尺八の演奏やオーストラリアの国歌などで賑やかに交流、翌日は袋田の滝見学を水郡線の景色と共に満喫しました。(皆川 末子)



梅染めプロジェクト

本協会では、限りある資源の有効活用（SDGs関連）と水戸・茨城の魅力向上を目的に、4年前から剪定した梅の木の枝を活用した「梅染めプロジェクト」に取り組んでいます。最近、これまで培ってきた梅染めの技法を市民・学校・市内のボランティア団体に積極的に伝えています。特に智学館中等教育学校の竹割りから作った梅染め和紙のうちわ、水戸工業高校と常磐大学のプレスレットや組紐が組み込まれたボールペンなどは教育の場で製作したとは思えない程完成度が高いものです。いずれの作品からも、ものづくりをとおしてSDGsの目標達成をめざそうという学校の先生や生徒さんたちの意気込みが伝わってきます。3月1日から茨城新聞みと・まち・情報館において開催される「水戸の梅染め～ひろがる世界」展では、水戸ユネスコ協会をはじめ、梅染めに継続的に取り組む学校や市民が、それぞれの思いで梅染めに取り組み、梅染めの新しい世界を切り開いている姿をご覧ください。（林 和男）



「環境フェア」への出展と「環境学習会」

水戸市では毎年、環境フェアを開催しています。令和5年度は新しくオープンした市民会館で開催され、専門家による講演会や劇団の公演、環境漫才など多彩なイベントが実施されました。その中の1つに企業や市民団体によるブースの出展があります。水戸ユネスコ協会では、例年、単独で出展していますが、今回はユネスコスクールの智学館中等教育学校や、環境教育に力を入れている水戸工業高等学校と、初めて3者合同で出展しました。出展のテーマは「水戸の梅染めからSDGsを考える」です。各学校からは授業で制作した梅染めや組みひもを使用した作品の展示や、学生たちの研究成果が展示されました。水戸ユネスコ協会では、会員の制作した作品の展示と、サステナブルファッションに関するパネルの展示、クイズの実施などを行いました。クイズを実施して分かったことは、学校教育でSDGsなどの勉強をするようになってからの世代と、それ以前の世代で、理解度に違いがあることでした。大人の方が個人ごとに理解度にバラつきが多く、特定のことに詳しい方でも体系的に理解がされていないことが多いようです。このような機会を切っ掛けに、市民の皆様持続可能な社会づくりについて考えて頂けたら幸いです。

環境学習会は主に定例会を活用し、令和5年度も3回開催することができました。テーマの第1回目は「気候変動の動向について」、第2回目は「地球沸騰化は本当か？ 将来に向けてどうすればよいのか？」、第3回目は「第2回目のふりかえり」についてで、気候変動に関するデータや対策の他、私たちの心の問題についても取り上げて考えました。（舘山 佳央）

「2023年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京」に参加して

9月3日(日)、青山学院大学本多記念国際会議場において「Together for Future 国や文化、あらゆる違いを越えて心に平和の砦を築こう！」をテーマに関東ブロック大会が開催されました。コシノジュンコ氏の「ファッションの持つエネルギー」と題して特別講演があり、ファッションショーを通じて世界の各国と交流を深めている体験談はまさしく国際理解につながるものでした。分科会は土浦ユネスコ協会から「ウクライナ支援コンサート」の発表があり、多くの方を巻き込む力に敬服しました。

最後に、次年度開催地として、茨城県各ユネスコ協会員が横断幕を手にもってステージに上がり、茨城大会への参加を呼びかけました。喜んでもらえる大会にしたいものです。（中庭 陽子）